

次期文化芸術推進計画素案に対する意見対応シート

1 第5回検討協議会分

項目	第5回検討協議会の主な意見	対応方法
全体		
表現	○細かい言い回しの修正を見直していく必要がある。 ○市民同士「相互」やひらがな「どうし」がよいのではない。漢字が気になった。 ○6ページの「そもそも文化～」の言葉は修正したほうが良い。字のフォントが違うので直した方が良い。	○全ての文章ができた段階で、表現の見直しを行う。
表紙	○表紙のキャッチコピーは、キーワードと連動するものではないか。 ○表紙については、「府中から奏でる文化芸術推進計画」にしてはどうか。そのあと、4つのキーワードを並べると良い。	○修正案として「府中から奏でる文化芸術推進計画」とし、「ふれる、はぐくむ、つながる、つむぐ」の4つのキーワードを並べる。「つむぐ」を先頭に目立たせた表現とする。
第1章 計画の概要		
3. 計画の位置づけ	○「協働しよう。そうしよう。条例」は視野に入っているのか。 ○協働の推進は大切。具体的に実施していくときにどのように協働すべきかは次の回で話したい。すべて行政だけがやるわけではないので、どういう人にどのように関わってもらうのか。	○第5章たたき台ができた段階で、内容をご判断いただきたい。
6. 計画における文化・芸術の範囲	○6ページに文化芸術の分野と内容が書かれているが、これは一般的なものか。国民的娯楽で、かるたやボードゲームもあると思う。 ○6ページの分類は、文化を広く捉える時に支障になる。表下の「人間の営みに・・・」の文章は良いことを書いているが、上で文化の範囲を絞っているのでは、違うことを言う	○表を削除し、後ろの文章のみとする。また、かるたや芸能等も一言入れる（具体的な競技かるたや郷土かるたは第4章に記載）。

項目	第5回検討協議会の主な意見	対応方法
	いるように見える。少なくとも催事や芸能など、府中固有のものが表現される必要がある。 ○かるたのことは、府中多摩かるた会連盟が熱心に大会を運営している。片町文化センターを会場にしており、素晴らしい活動だ。今は若い世代が中心になって活動している。 ○6ページの表は難しい。競馬場などにも広げることにするならば、表ではないほうが良い。	
第2章 府中市の文化的特徴		
1. 充実した文化・芸術環境	○7ページについて、「一方で～施設の利用割合が少なくなっていることから」はどこのどのようなデータなのか疑問がある。	○アンケート結果から明らかになったことを修正する。
2. 活発な文化芸術活動	○8ページの写真の文化団体は、各文化センターに登録している規模の小さな団体もあるので、「府中市における文化活動」に入れても良いのではないかと。社会教育関係団体は1,010 団体あるが、他にも自主グループとして文化活動を行っている団体が多数ある。そういう数字を出せると良い。	○多くの団体が市内で活動しているが、市で把握している団体数に限りがある。このため、一旦はプラッツの登録団体を追加する。
第2章または第4章	○現行計画の振り返りや現状把握がないままでは、ここに至った経緯が見えない。	○第4章でも現状と課題を記載するため、次回検討協議会でご判断いただきたい。
第3章 計画の基本理念		
基本理念	○10ページの理念は説明がもう少し簡潔でも良い。いきなり「親」が出てくるので、人として、社会的な存在として、などの文章にすると良い。 ○10ページの「人は、あるときは親として・・・」は、文章として引っかかっている。「あるときは社会や家庭の一員として」という言葉の方が良い。	○委員のご意見に合わせて修正する。

項目	第5回検討協議会の主な意見	対応方法
	○10ページの枠内は表現を調整したほうが良い。1項目の最後の「ふさわしい形」は、どういう形なのか。言葉の使い方に違和感を持った。 ○災害については、今の表現では発生してからつながりを作るように思えるが、災害時につながりを作るというよりも、それ以前に文化でつながりを作るということだと思う。また、「助け合う、支え合う」という言葉を入れた方がいい。 ○3番目の主体が何か分かりづらい。 ○一番下の「幸福感が高まります」という言葉については、語調を他と統一する必要がある。 ○10ページの基本理念2つ目の、疫病や自然災害に立ち向かうという表現について、対立構造にせず、減災・レジリエンスという言葉を使ってうまく共存しながら乗り越えていくという考え方の方が良い。それも踏まえて、この文言は調整が必要だ。この場合は、「立ち向かう」ではなく、「うまく越えながら」などはどうか。 ○今までの話だと、基本理念の中身は良いが、今の時代に合った表現の工夫が必要ということか。 ○理念は「協働しよう。そうしよう。条例」を加味して表現できれば良い。	
順番	○基本施策3の「うけつぐ」は府中市の特徴的ではないかと感じているが、3番目では他の基本施策に埋もれてしまうのではないか。「うけつぐ」が先にあると、「ふれる、はぐくむ」につながるように思った。あるいは、「ふれる、はぐくむ」があって最後に「うけつごう」でも良いのではないか。	○「うけつぐ」を一番初めとし、順番を入れ替える。

項目	第5回検討協議会の主な意見	対応方法
	○順番や並べ方は議論が必要。全体がつながって、みんながいろいろな形で触れることで、文化が発展的に展開していくことになる。 ○順番はいろんな議論がある。「つなぐ」と「つながる」は順番が逆でもよい。	
第4章 具体的な施策の展開		
基本施策1：ふれる		
「ふれる」の表現	○文化にアクセスするという意味だと思うが、「ふれる」は良い言葉だと感じた。博物館では、よく見てほしいと言うことで視覚障害者を排除してきた歴史があるという考え方があり、そこからユニバーサルミュージアムという考え方が出てきた。アクセスしやすいところで、それぞれ文化や芸術に触れていく。「ふれる」だと、その人に相応しい距離感も調整できる。 ○11ページの計画の全体像の「ふれる」の中の「市民同士の理解」は、「市民同士の対話」を使えば良い。	○「ふれる」のままとする。
どこでも気軽に文化に触れられる環境の拡充	○気になっているのは、商店街の個人の店が無くなっていることだ。商店街を地域資源の一つと捉えて活用すれば、駅から離れていても賑わいや交流を促進できるのではないか。小さなイベントや販売などのコミュニティ活動を行うことで身近にできるのではないか。どのように伝えて活用するかは重要だ。 ○昭和40～50年に設置された施設が多く、老朽化している。文化センターが自立して稼働する取組をしなければならない。	○文化センターについては、他の文化施設と同様の位置付けで記載する。

項目	第5回検討協議会の主な意見	対応方法
	○文化センターは文化芸術の推進に大きな役割を果たしており、現在の文化センターはどうなっているのか皆さんに興味を持っていただきたいので、広報に載ったのは凄い。 ○老朽化している施設は多数ある。存続させるという方向性を後押しすることを記載しても良いのではないかと文化センターは基盤的なことを担っていると感じた。 ○他県の計画策定の会議で地域間格差の話が出た。県レベルだと対象地域が広いので、文化の地域間格差があることを視野に入れて機会平等にできないかという内容だった。芸術施設を全部の場所に作るということではなくて、色々な形で文化に触れて受け継ぐ場があると、今後もつながっていくということを入れたほうが良い。 ○県レベルでは広すぎて難しくても区や市レベルならできることもある。文化センターを拠点として活用することで、府中市の中の地域間格差は解決されるのではないかと。	
あらゆる市民に届く情報の収集・発信	○昨日発行された広報ふちゅうは、表紙や中の記事で文化センターの紹介をしていた。前回の会議で出た、前から住んでいる人は知っているが、新しい住民には分かりにくいことがとても上手く紹介されており、良い流れになってきていると感じた。文化センターが発展し利用率が高められると良い。 ○他自治体では、文化・スポーツ事業の独自の広報をWeb上でも出しているところもある。 ○情報をどう発信するかを計画の中の「ふれる」の項目に入れても良いのではないかと。「ふれる」きっかけをどう作っていくかは、意識的にやっていかないと計画だけで終わってしまうため、情報発信のことを入れておきたい。	○次回検討協議会で検討いただく。

項目	第5回検討協議会の主な意見	対応方法
	○アプリには入れられないのか。自治会では、データで配信している。 ○情報の話は年代格差もある。紙でなければ知ることができない人も多いので、紙媒体の効果は大きい。今はWeb配信が便利だという人もいる一方で、面倒に思っている人もいますので、年代、あるいは個人格差もあり、皆がWebを使いこなさないといけないというのは無理がある。 ○情報発信は私も気になった。市民活動センターには、文化情報を得るために来館する方もいる。紙媒体やホームページなどを情報発信に活用しているが、文化センターなどの拠点場所自体も情報発信の場になっている。 ○情報発信は、紙媒体は重要だが、インターネットの時代なので、ネットの中で情報を取る人が多い。Webページを作るにしても届けたい人や潜在的に必要な人にどのように届けるかを考えると、アルゴリズムの仕組みを応用する視点もあるのではないかと。発信してもなかなか届かないので、仕組みを理解して引っかかるようにしないと漏れてしまう。	
基本施策2：はぐくむ		
	※特になし	
基本施策3：うけつぐ 又は つくる		
「うけつぐ」の表現	○「うけつぐ」は、かるたの話もあったが、アーカイブの問題と絡んでくる。どのように考えるかは難しいが、あちこち広がらないようにするためには「うけつぐ」の中にアーカイブの概念を取り込むことが良いのではないかと。	○「つむぐ」に変更する。

項目	第5回検討協議会の主な意見	対応方法
	○「うけつぐ」という言葉は、自分たちの代で終わるような感じがする。継承されていくものなので、「伝える」「つなぐ」が相応しいのではないか。 ○「うけつぐ」は「伝える」の方が良いと思った。次に伝えるというニュアンスがあれば全体が循環する。文化を保護、継承してくときには、色々なつながりがある。古い物を見て触発される。つながって盛り上がる感じが出ると良い。 ○「うけつぐ」の話だが、「つむぐ」という言葉はどうか。「つむぐ」という言葉には、込められた思いを大切にするというニュアンスが含まれるため、子ども達には難しいかもしれないが「つむぐ」が良いと思う。	
地域文化の継承と活性化	○祭りや運動会がうるさいと言われることもあるが、文化芸術をどのように「ふれる・はぐくむ・うけつぐ・つながる」に結び付けるかは課題だ。 ○新しい文化を作るとともに、過去の文化を掘り起こすことも重要だ。他自治体では、地域で守り、語り継いでいる芸術を見出す取組を行い、美術業界でも評価された事例がある。都市のブランド力に文化面が与える影響は大きいと思った。府中でも掘り起こせば出てくるのではないか。この「はぐくむ」や「つなぐ」の項目の中に、掘り起こすことにも触れられたら良い。	○次回検討協議会で検討いただく。
基本施策4：つながる		
	※特になし	
全体		
重点施策	○これから数年で重点的にやることを明確に出しても良い。重点施策や重点課題をはっきり出す場合もあるが、例えば、	○次回検討協議会で検討いただく。

項目	第5回検討協議会の主な意見	対応方法
	「うけつぐ」が重要であれば、一番上に持ってくることで見え方が変わる。	
第5章 計画の推進に向けて		
共創・協働	○協働して文化を推進していくということはどういうことなのか、事務局や委員で事例を集めて具体的な案を出す必要があるのではないか。 ○劇場や博物館などでカバーできない部分を、どう協働や共創でやっていくかは考えていく必要がある。 ○協働・共創の具体例を持ち寄って、文化芸術における協働・共創の仕組みを検討したい。市に登録していないが文化活動を行っている団体も含めて求められている支援を考えていく必要がある。その場合は、市が直接支援するのではなく、どのようにつなぐかを考えていかないといけない。	○役割について、「市が期待する役割」という視点で修正する。
ロードマップ	○計画を実現するために、ロードマップを表示したほうが良い。プロジェクトの目標達成までの道のりを時系列に表示すれば、全体像が見えて、関係者が横断的に確認できるようになる。目標値の達成度をオープンに伝えたほうが、責任感を持って反省も踏まえた次年度の検討もできる。 ○厳密な物を作る必要はないが、大まかな計画は入れ込むのが基本だ。 ○ロードマップは難しい。ロードマップを作るのであれば、あまり作り込み過ぎず、あくまでも目安として作った方がいい。	○重点施策を盛り込むことになった場合、重点施策のロードマップを検討する。

2 追加分

該当 頁	該当部分	修正内容	対応方法
表紙	府中から奏でる	○府中市ならではの素敵なキャッチコピーだが、表紙にのみ単発で登場しているためストーリー展開になっておらず、この後、魅力的にするためには構成やデザインなどに工夫が必要である。 ○「府中から奏でる」は、府中という舞台で、音を奏でるように人生をより深く味わい彩り豊かにしていくイメージである。 ○主要なページに奏でるの文字を入れ込むことでキャッチコピーを記憶に残すなどの改善が必要。完成をイメージするとストーリーの入り口(表紙)から出口まで「奏でる」の印象を残した方がこの計画に込めた思いが伝わるのではないか。	○10ページの基本理念の説明文において、「府中という舞台で、音を奏でるように人生をより深く味わい彩り豊かにしていく」という表現を追加する。併せて、「奏でる」という言葉が音楽や舞台に限らず、多様な人生の営みを調和させ、創造的に紡いでいく比喩表現であることが伝わるよう記載する。
表紙		○表題／○×4つのキーワードで表記する。 ○文化芸術推進計画は上位計画の“第7次府中市総合計画（令和4年度▶令和11年度）”にある【基本目標3】【文化】【学習】からキーワードとして継承すべき。	・計画の位置付けに記載しているとおり、本計画は総合計画との整合性を図るものである。 なお、本計画の策定に当たっては、新たなキーワードを加えており、独自の視点を持つ計画として整理している。総合計画の内容については、「府中市の動向」で掲載したい。 総計における将来像などにふれ、「～を目指す府中市においては…」などの表記を用いつつ記載する。
全体	全体	○全体的に文字が多い。図や絵によるインパクトが無く、物足りなさを感じる。総括して文字が小さく感じる。特に目次の	○本計画の性質上、一定の文章量は必要であると考えているが、より分かりやすく

該当 頁	該当部分	修正内容	対応方法
		表現やその他図表等はフォント含めて現行計画のフォーマットを継承すべき。	周知するために、概要版の作成などの対応も検討する。 ○本文の文字サイズは12ポイントを基本とする。 ○必要に応じて、図やイラストの挿入も最終的に検討する。 ○現行計画との連続性が分かるよう、可能な範囲でデザインを踏襲する。
全体	ページ割り	○ページ割りの構成案 第1章 計画の策定に当たって 1. 策定の趣旨 2. 計画の位置付け 3. 計画の期間・進行管理 4. 文化芸術の定義 第2章 文化芸術を取り巻く環境 1. 社会環境 2. 国・東京都の動向 3. 府中市の動向 4. 府中市の芸術文化の歩み 第3章 文化芸術計画の評価 1. 施策目標の取組・評価 2. アンケート結果 3. 評価指標 4. 次期に向けた課題創出	○取り巻く環境や現行計画の評価については、本編においてより詳述すべきとの趣旨と理解している。ただし、次期計画は、府中市のこれからの文化芸術に関する計画であるという観点から、これらの内容は資料編に掲載することを基本としたい。

該当 頁	該当部分	修正内容	対応方法
		第4章 計画内容 1. 施策推進に当たって 2. 施策の体系と基本的な考え方 つむぐ・ふれる・はぐくむ・つながる 3. 計画実行の推進体制 資料編 1. 策定経過 2. 市内の文化芸術の拠点(Map あり) 3. 全体の体系図	
全体		○「障害」と「障がい」の表記が混在している。	○総合計画では「障害」で統一しているため、「障害」で統一する。
1 頁	「府中市は…拠点的な地域となっています」	○「府中市は…拠点的な地域のひとつとなっています」に修正する（周辺他市にも配慮）。	○修正する。
1・6・9 頁 など	「固有の文化の保存・継承」「地域固有の文化」「府中固有の文化」	○「府中ならではの地域文化」に修正する（固有の言葉は固すぎか。また「固有文化」には外来文化に対する基層文化・在来文化の意味が強い）。	○「固有」が含まれる表現を「府中ならではの」とする。
1 頁		○「外国人居住者の増加」の文言を加えてはどうか。政治的にナイーブな問題であるが、「共生社会の実現」や「多文化共生」は本計画で強調され主眼でもある。そもそも府中は国際交流を積極的に推進しており、その前提でもある。	○追加する。
1 頁	「新型コロナウイルス感染症による社会の変容」	○「新型コロナウイルス感染症の社会経験」に修正する（社会の変容とまでは評価できない）。	○追加する。

該当 頁	該当部分	修正内容	対応方法
1 頁	「市民のウェルビーイング（幸福・充足感）の向上につなげていく視点」	○「市民のアイデンティティの形成、シビックプライドの醸成」なども加えてはどうか。	○追加する。
1 頁		○(1)の1行目「現在の府中市は、」の「現在の」は無くても良いのではないかと。 ○(1)の3行目、4行目「高度 経済成長」の「高度」と「経済」の間の半角の空白を削除する。また、「芸術 活動」の「芸術」と「活動」の間の半角の空白を削除する。 ○(1)の11行目～12行目「関連分野の施策を法律の範囲に取り込み」の意味が分かりにくい。	○削除する。 ○削除する。 ○修正する。
1 頁	1. 策定の背景	○「地域の文化活動の拠点となる施設・・・」とある中で、「生涯学習センター・フチャール」が抜けている。 ○市民はどういった組織運営になっているのかをほぼ知らないのではないかと考えた時、対象となる施設名を丁寧に、かつ、簡単に説明しておくべきではないか。また、分倍河原駅開発計画が文化芸術に関わる部分があれば記載が必要ではないか。（例：新田義貞公馬上銅像・歴史） ○869字は長い気がする（今後“市長の挨拶”文章原稿との精査も必要）。 ○21行～が市民に伝えたい重要課題であることから、「今後は」を「今後も」とする。	○「生涯学習センターフチャール」については、「など」に含まれるものと認識している。なお、これらの文化拠点施設については、資料編において拠点マップを作成し、対応する予定である。 ○分倍河原駅周辺の再開発計画については、現時点で未確定な要素も含まれることから、引き続き特出しして記載するかどうかを検討する。 ○「今後も」に修正する。
1 頁	「文化財保護法」や「博物館法」の改正など、文化資源の保存・活用に関する法制度の見直し」	○「文化財保護法」や「博物館法」の改正など、地域振興・観光振興にも目を向けた文化資源の保存・活用に関する法制度の見直し」に修正する（法改正の主旨の一つを明示）。	○修正する。

該当 頁	該当部分	修正内容	対応方法
2頁		○(2)の【社会潮流】の9行目「レジリエンス」は日本語の方が良いのではないか。	○「しなやかな強さ」などと日本語で言い換えることも可能ではあるが、本来表現したい趣旨と異なる解釈を招くおそれがあるため、原案の表現を維持する。その上で、意図がより明確に伝わるよう、注釈や用語集などで補足対応を行いたい。
2頁	東京都の動向（戦略・計画）	○「東京都・府中市芸術文化連携事業」の現況（概要）の記載は必要ないか？	○東京都との連携事業は、これまで単年度事業として実施してきた。今後も都と連携しながら文化振興施策を推進していく旨については、「府中市の動向」で記載する。なお、次年度以降も継続の可能性がある場合は、第4章「基本施策」における各施策内での記載を検討する。
2頁	社会潮流	○府中は既に「メタバース市役所」、不登校児童らに「仮想空間」（バーチャル・ラーニング・プラットフォーム）事例があるため、社会潮流に次の2点を追記する。 1. DXの発展 芸術文化においては、デジタルアーカイブ化・AR・VR・サイネージ・3D・プロジェクションマッピングなどの技術を活用した鑑賞体験も実施されている。 2. SDGsの取組や意識の高まり 目標の達成に向けて国や企業・自治体による取組が進められている。文化芸術に関する活動を広げていくことが必要とされている。	○補助事業との関連性も踏まえ、DXについては「情報通信技術の活用が広がり、オンラインによる鑑賞や発信など、文化芸術の楽しみ方や届け方にも多様な手法が取り入れられるようになっていきます。」と記載する。 ○他市において、AR・VR技術を活用した取組が終了する例も見られるため、デジタルアーカイブ化の必要性についても記載する。

該当 頁	該当部分	修正内容	対応方法
			○SDGs の推進については、考え方として簡潔に触れる程度で記載する。
3頁		○3行目「鑑賞・体験しやすい機会の提供を拡充」を「鑑賞や体験をしやすい機会を更に提供」に修正する。 ○7行目～8行目「そうした」を「このような」の方が良いのではないか。	○修正する。
4頁	3. 計画の位置づけ	○前回同様、図柄を継承し、いい意味での流用をすべきではないか。現行小さい。 ○生涯学習センターの市の中心部へ移設（統合）する計画は、どの章に記載するのか。 ○本計画の位置付けとして、府中市の組織体制を広く知ってもらうためのステークホルダーは最重要項目である。	○現行計画の図とする。 ○生涯学習センターについては、基本施策4の現状整理の中で掲載している。
4頁	4. 計画の期間	○前回、府中市文化芸術推進計画2018—2025の4ページと同様の図にする。 ○進捗管理を目的とした中間効果測定（1回／4年）の実施、帳票（計画図）を最下段へ追記する。 案としては「3年5年7年ごとに“PDCA”を回し計画の進捗管理を行い、必要に応じた方策の見直しを行う（3回／計画中に実施としルール化）」	○計画期間については、前回計画と同様の図を用いて整理する。 ○PDCA等の進捗管理については、30ページ「幸福度につながる進捗管理」に記載している。今後の事業評価や検討の進め方については、新たに設置を予定している分科会（仮称）において議論していきたい。
5頁	5. 計画策定の体制	○標記を統一する（府中市文化芸術推進／府中市文化振興計画／市内芸術文化関係／文化・芸術）。 ○文字を修正する（団体調査：回収率 77/0%→77.0%）。	○用語のバラツキについて、「文化芸術」で統一する。 ○数値を修正する。
5頁		○1行目、6行目、7行目の「府中市文化振興計画検討協議会」「府中市文化芸術推進計画検討協議会」「府中市文化振興計画検討協議会」は同じものを指しているのか。	○「府中市文化芸術推進計画検討協議会」が正しいため、こちらで統一する。

該当 頁	該当部分	修正内容	対応方法
6頁		○9行目「子どもから大人まで取り組まれてきました。」は、 子どもの時から郷土かるた等を学び、大人も郷土かるた等に 触れ、広く親しまれているという趣旨だと思うが、短く書き 表したい。	○修正する。
7頁	6. 充実した文化・芸術 環境	○府中市の文化芸術施設（概要）に施設名を明記する。指定 管理者の記載も検討する。 ○第2章 府中市の文化的特徴（7ページ～）市民が利用で きる施設名を明記する。 具体的な対象となる主な施設名 【府中市の既存の文化芸術施設】 * 府中の森芸術劇場 * どリーむホール（2,027 席） * ウィーンホール（522 席） * ふるさとホール（520 席） * 府中の森芸術劇場分館（ル・シーニュ地下2階） 【美術館・博物館・歴史館・展示館】 * 府中市美術館 * 府中市郷土の森博物館 * ふるさと府中歴史館 * 国史跡武蔵府中熊野神社古墳展示館 * 郷土の森観光物産館（郷土の森観光情報センター） 【文化センター】（地域に根差した団体活動等の拠点。図 書館を含めた複合施設） * 府中市生涯学習センター（講堂 293 席・室内プー ル・図書館） * 中央文化センター	○ここでは、代表的な文化施設を例示し ている。他の文化拠点施設について は、資料編にて拠点マップを作成し、 対応する予定である。

該当 頁	該当部分	修正内容	対応方法
		* 白糸台文化センター * 西府文化センター * 武蔵台文化センター * 新町文化センター * 住吉文化センター * 是政文化センター * 紅葉丘文化センター * 片町文化センター * 四谷文化センター * 押立文化センター * その他 * 府中市市民会館（コンベンションホール飛鳥 最大 700 席） * 府中市市民活動センタープラッツ（バルトホール 284 席） * 図書館（中央図書館、武蔵台図書館など市内 13 施 設） ■これらの施設は、演劇、音楽、美術、歴史、学習など、 多岐にわたる文化芸術活動拠点となっている。	
7頁		○本文6行目「としても利用されています。」を「としても広 く利用されています」に修正する。 ○本文12行目「利用割合が前回調査に比べ少なくなってい る」 ○2つ目の四角の中、4行目、6行目「前回調査(H29 年)に比	修正する。

該当 頁	該当部分	修正内容	対応方法
		べ、過去１年以内の利用割合が減少傾向」とあるが、劇場及び博物館の改修工事による閉館期間があったことが減少に影響していることに触れておいた方が良いのではないか。	
９・１３ 頁など	「大國魂神社（くらやみ祭）」「大國魂神社やくらやみ祭り」	○「大國魂神社とくらやみ祭を始めとする祭礼・催事」（年間を通じて街を賑やかす重要な伝統的イベントがあるため）に修正する。	○修正する。
１０頁	その時々の姿に自然な形で、文化芸術と出会い・関わる機会を開いていきます。	○「その時々をの姿に日常に寄り添う形で、文化芸術と出会い・関わる機会を開いていきます。」に修正する。	○修正する。
１０頁	その創造性を育み、広げていくことで、地域の未来に多様な可能性が開かれていくと考えています。	○「その創造性を育み、広げていくことで、地域の未来に多様な可能性を開いていきます。」に修正する。	○修正する。
１０頁	だからこそ、文化を通じて多様性を受け入れ、交わり、協働することが、より豊かで創造的な社会を築く原動力になると考えます。	○「だからこそ、文化を通じて多様性と共に歩み、交わり、協働することが、より豊かで創造的な社会を築く原動力になります。」に修正する。	○修正する。
１０頁	文化の力で、幸福感のある社会を築いていきます	○「文化の力で、幸福感を育む社会を築いていきます。」に修正する。	○修正する。

該当 頁	該当部分	修正内容	対応方法
10頁	計画の基本理念 市が大切にしている価値観 5点	○検討事項	○当該事項については、発言をした委員 のご意見の趣旨を正確に把握するた め、詳細を確認する。
11頁 以降	基本施策 1：つぐむ 2：ふれる 3：はぐくむ 4：つながる	○基本施策1から4の項目整理は進めてもらったが、全体の流 れとして次の順番はどうか。1 ユニバーサルなアクセス→2 育成→3 ネットワーク→4 文化遺産の保全・活用・継承という 流れになる。 1：ふれる（←旧2ふれる） 2：はぐくむ（または「つむぐ」）（←旧3はぐくむ） 3：つながる（←旧4つながる） 4：つなげる（←旧1つむぐ）	○当該内容については、本審議会におい て委員の皆様にご議論いただき、再検 討する。なお、実際に修正を行う場合 には、前回計画との比較ができるよ う、対応表を作成することで変更内容 の見える化を図る。
15頁		○馬場大門のケヤキ並木に関しては「街のシンボルとしての保 全」「街の広場としての活用」の文言はどうか。	○事業担当課と検討する。
12頁 以降	めざす姿 施策の方向性	○めざす姿とありながら進行形になっている。施策の方向性で はなく内容ではないか。	○現行計画では、「めざす姿」は将来的 に実現された状態を示すものとして 記載していることから、本計画におい てもその表現を踏襲したい。必要に応 じて、本日、ご議論いただきたい。
12頁 から 24頁	各項目のめざす姿の内 容	○誰の目線で書かれているのかという違和感がある。	○府中市としては、現行計画と同様に、 事実を端的に伝える書き方を基本と したい。
14頁 以降	施策の方向性・主な事業 取り組みの方向性	○取り組みの方向性とありながら内容になっており、違和感が ある。	○「取り組みの方向性」→「取組内容」 に変更する。
その他	素案についての感想	○作り手側よりも受け手側がどう思うかを考えると、文字量が多 いため、市民に伝わるか疑問だ。	○本計画の性質上、一定の文章量は必要 であると考えているが、より分かりやすく

該当 頁	該当部分	修正内容	対応方法
		○文字量は極力少なくする方向に移行すべき。足し算ではなく引き算にすることで、本来伝えるべき本当のテキストが見えてくると考える。次のステージになるが、視覚的にどう見せて行くのか、フォント選びや文字の太さ色彩的にどうまとめるかも重要である。 ○完成度を高めるためにページ割りの構成が重要であり、ここに時間をかけて検討すべきである。完成すべき「文化芸術推進計画」はどんなものにするのか、着地するイメージを持ってまとめることが必要だと感じた。	周知するために、概要版の作成などの対応も検討する。 ○現行計画との連続性が分かるよう、可能な範囲でデザインを踏襲する。
その他	その他	○今回のアンケートにある“市民コメント”に対して、どの部門が“やるか”“やらないか”を丁寧に回答し説明することが重要。進行中の計画に関わる課・施設が、現計画が目指すところに達しているのか、アンケートの内容をどう受け止めているのかを解析し、次期計画策定につなげるべきと思います。 ○民意としてアンケートを大切に扱い、次期計画策定の根拠とすることが大切である。特に、自由回答コメントに対しては、丁寧な回答をすることを前提に、「やるか」「やらないか」で答えるべき。 ○前回のパブリックコメントにある“PDCAを行う”について、実行のタイミングは今しかないと思います。その結果は早急に委員で共有すべき事柄であり、現行の計画策定の柱になるべきことと考えます。	○アンケートの「自由意見」も十分に踏まえた上で、計画の骨子を立案している。いただいたご意見の中から一定の傾向を読み取り、計画に反映している旨を資料編に記載する予定である。
その他	その他	○地域文化センターや生涯学習センター・府中の森美術館・芸術劇場への街中心部、並びに遠方となる府中市内からの移動	○施設間の連携については、既に一定程度図られている面もあることから、計

該当 頁	該当部分	修正内容	対応方法
		について、関係部門と、府中市が掲げる“協働”を持って改善することを本計画に明確に盛り込むべきと考えます。	画への記載のあり方については、本審議会においてご議論いただきたい。
その他	直近動向の共有	○今月8月7・8日開催予定である「ミライ会議（若者中心）」のワークショップから抽出される要望やアイデアを、推進計画に網羅することも視野に入れるべきと考える。本協議会で近々の新情報として委員全員が共有した上で、今後の課題とするか検討協議は必要と考えます。	○「ミライ会議」で出されたご意見については、まずはどのような意見が出るかを見極めた上で、内容を踏まえ、計画への反映の可否や方法について検討する。